

WS 3	国際収支から見た日本経済 — 弱くなった円の正体を探る：経常収支、デジタルサービス、インバウンド、新NISA…			
	【定員】35名 【受講料】2年・1年会員ともに18,530円 聴講生 20,080円			
	【政治・経済・社会】経済 ワークショップ 【時間】毎回 15時00分～17時00分（計12回）			
概要	かつて貿易立国を誇った我が国は今、貿易赤字国。長引く円安によりエネルギーなど輸入物価は高止まりし、ネット関連等のデジタルサービスの輸入も増えています。インバウンドは好調ですが人手不足等の問題を抱え、地政学面からも期待される海外からの国内投資（GDP比）は未だ世界最下位グループ。家計金融資産は世界2位ですが高齢化による減少が見込まれ、新NISAは海外投資が選好される傾向にあり、政府債務も相変わらず膨大。経常収支黒字の下での円安の正体を切り口に日本経済の現状を確認しつつ、夢ある未来について色んな角度から考えていきましょう。			
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	4/11(金)	川崎市 生涯学習 プラザ	ガイダンスと国際収支に関する基礎的学習 －経常収支（貿易収支・サービス収支・第一次所得収支等）・資本移転収支・金融収支等	横浜市立大学名誉教授 金子 文夫
2	4/18(金)		国際収支・為替市場・景気・企業行動などの推移の確認と国際収支発展段階説等の学習	
3	4/25(金)		第1章 新時代の赤字の正体 (成熟した債権国、デジタル赤字、小作人は地主に勝てず、サービス取引の国際化、イノベーション税制)	
4	5/16(金)		補足：①サービス収支に透ける製造業の行動変化 ②旅行収支にどこまで頼れるか ③デジタル赤字は日本だけなのか	
5	5/23(金)		第2章 仮面の黒字国の実情 (戻らぬ投資収益、キャッシュフローベースの経常収支、円高の正体、スローバリエーション、普通の通貨＝円)	
6	5/30(金)		第3章 資産運用立国の不都合な真実 (家計の円売り、弱い円への諦観、貯蓄は低成長の原因ではなく結果、資産運用立国の着地点)	
7	6/6(金)		前半の補習／復習とコーヒープレイク（最近の経済面での話題について）	
8	6/20(金)		第4章 購買力平価はなぜ使えなくなったのか (PPPで見るドル/円相場、円安への期待は輸出数量ではなく株高、旅行輸出でインフレ圧力を輸入)	
9	6/27(金)		補足 日経平均株価の騰勢は「インフレの賜物」	
10	7/4(金)		第5章 日本にできることはないのか (対内直接投資の推進、投資を阻む2つの不足、直接投資の負の側面、海外人材の招致)	
11	7/11(金)		政府施策の推進状況（対日直接投資推進会議等）と後半の補習／復習	
12	7/18(金)		最終討議（複数の論点についての自由討論会）	
連絡事項	①講義を受講するのではなく、テキストを基に自分たちで考え・調べ・討議しながら自主的に学習する方式です。 ②担当チームがテキストの担当部分について調査・研究・理解した内容を発表するとともに、全員で疑問点についての質疑応答と論点の討議を行います。なお、発表資料は担当チームからメールで事前送付されますので、各自でプリントして持参願います。 ③テキストは『弱い円の正体 仮面の黒字国・日本』 ④WS後の課外授業も活発に行っている楽しく元気なWSです。（唐鎌大輔著、2024年7月 日経プレミアシリーズ、1,000円）を使用しますので、各自で購入してください。			